

研究業績等に関する事項

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は 発表学会等の名称	概 要
(著書(欧文)) 1.				
(著書(和文)) 1. 認知症ケアのための 心理アセスメントと 心理支援	共著	2022年6月	金剛出版	高齢者支援に携わる専門職を対象とした認知症ケアの総合的ガイド (260ページ)。第Ⅲ部心理社会的介入 (リハビリテーション) の第2章「行動志向的アプローチ (p127~137)」を分担執筆。 (小海宏之・若松直樹・川西智也編) 執筆ページ数/総ページ数=11/260
2. 医療系のための心理学	共著	2020年10月	講談社サイエンティフィック	医歯薬看護、OT/PTの学生を対象とした心理学概論テキスト (240ページ)。編者役割以外にも第3章「注意・記憶 (p40~61)」、第4章「言語・思考 (p69~82)」、第6章「集団と社会 (p101~118)」、第9章「心の理解とその支援方法 (p161~181)」、第11章「家族関係の理解 (p202~224)」を分担執筆。(櫻村正美・野村俊明編) 執筆ページ数/総ページ数=98/240
3. 集団認知行動療法の 進め方	分担	2020年7月	培風館	集団認知行動療法の概要、実施方法、疾患や領域別の活用方法について (198ページ)。第5章3節「高齢者におけるうつと不安の集団認知行動療法 (p140-145)」を分担執筆。 (大野裕・堀越勝監修、田島美幸編) 執筆ページ数/総ページ数=6/198
4. 認知行動療法事典	分担	2019年9月	丸善出版株式会社	認知行動療法の初の事典 (828ページ)。「高齢者と認知症のうつと不安の認知行動療法 (p374-375)」を分担執筆。(清水栄司・鈴木伸一編) 執筆ページ数/総ページ数=2/828

5.	くらしの中の心理臨床第5巻認知症	分担	2017年9月	福村出版	認知症ケアにおける心理職の関わり方や工夫について論じる (244ページ)。 「外来での個別カウンセリング (p45-64)」「外来における介護家族への心理教育プログラム (p.51-56)」「介護準備家族を対象とした個別カウンセリング (p57-64)」「困難事例の検討会議におけるコンサルテーション (p79-84)」「認知症を対象とする心理療法的アプローチ (p201-210)」「統計資料 (p218-224)」を分担執筆。 (北村伸・野村俊明編) 執筆ページ数/総ページ数=64/244
6.	くらしの中の心理臨床第1巻うつ	分担	2015年10月	福村出版	うつ病の治療・ケアにおける心理職の関わり方、可能性についてまとめた書籍 (176ページ)。「抑うつの治療(1)-精神療法 (p131-141)」、「診断基準 (p164-171)」を分担執筆。 (野村俊明・青木紀久代編) 執筆ページ数/総ページ数=19/176
7.	スタンダード心理学10スタンダード臨床心理学	分担	2015年8月	サイエンス社	臨床心理学の概論書 (336ページ)。「第1章 臨床心理学とは (p1-33)」を小川俊樹・榎村正美で分担執筆。(杉江征・青木佐奈枝編) 執筆ページ数/総ページ数=33/336
8.	新訂心理・教育統計法特論	分担	2015年3月	放送大学教育振興会	放送大学の心理・教育統計法特論を受講する学生のためのテキスト (249ページ)。「分散分析 (p71-88)」、「多変量分散分析 (p119-129)」、「主成分分析・因子分析 (p130-154)」を分担執筆。(小野寺孝義編) 執筆ページ数/総ページ数=54/249
9.	自殺を防ぐ診療のポイント	分担	2013年5月	中外医学社	日本の自殺の実態、リスクの評価と対応、治療、予防について (224ページ)。第5章「不幸にして自殺が起きてしまった時に (p104-117)」を分担執筆。(高橋祥友編) 執筆ページ数/総ページ数=14/224
10.	こころを癒すノート	共著	2012年3月	創元社	認知処理療法マニュアルを一般人向けに作成し直した自習帳テキスト (128ページ)。(伊藤正哉・榎村正美・堀越勝著) 共同執筆につき担当部分抽出不可能

(学術論文(欧文))				
1.	Assessing late-life anxiety in Japanese older adults: Psychometric evaluation of the Japanese version of the Geriatric Anxiety Scale	共著	2023年4月	Psychogeriatrics, Early View: Online Version of Record before inclusion in an issue (page 1-11). 高齢者を対象とした不安症状を測定する日本語版尺度の開発を行った。先行研究と同様の因子構造が確認され、十分な心理統計的な特性（内的一貫性、再検査信頼性、構成概念妥当性）が示された。（ <u>Kashimura, M.</u> , Ishizu, K., Kokubo, N., & Segal, D. L.）（査読有） https://doi.org/10.1111/psyg.12971
2.	Development of a Scale on Beliefs about Negative Emotions for Japanese Young Adolescents.	共著	2023年2月	Online Journal of Japanese Clinical Psychology, 7, 1-12. 中学生を対象としたネガティブ感情に関する信念を測定する尺度の開発を行った。本研究の結果から、仮説通りの因子構造が確認され、十分な心理統計的な特性（内的一貫性、再検査信頼性、構成概念妥当性）が示された。（ <u>Kashimura, M.</u> , Ishizu, K., & Shimoda, Y.）（査読有） https://www.ajcp.info/en/journal/pdf/07/p001p012.pdf
3.	Feasibility and acceptability of cognitive behavioural therapy in older Japanese people with cognitive decline: A single-arm intervention.	共著	2022年12月	the Cognitive Behaviour Therapist, 15, e52 (page 1-19). 軽度認知障害を持つ高齢者13名を対象とした認知行動療法に基づくプログラムを実施し、その実施可能性や安全性の評価を行った。プログラムの前後、実施中でも有害事象は報告されず、プログラム実施前と比較して参加者の抑うつ得点や健康関連QOLの改善が見られた他、一緒に参加した介護家族の不安も改善された。（ <u>Kashimura, M.</u> , Ishiwata, A., Tateno, A., & Spector, A.）（査読有） https://doi.org/10.21203/rs.3.rs-20136/v1
4.	Feasibility, acceptability, and preliminary efficacy of cognitive processing therapy in Japanese patients with posttraumatic stress disorder.	共著	2022年12月	Journal of Traumatic Stress, 36, 205-217. 心的外傷後ストレス障害に対する治療の一つで有る認知処理療法を日本に導入し、その実施可能性や安全性の評価を行った。実施前の状態と比較し、症状の有意な改善がみられ、日本でも安全に実施することが可能であることが示された。（Takagishi, Y., Ito, M., Kanie, A., Morita, N., Makino, M., Katayanagi, A., Sato, T., Imamura, F., Nakajima, S., Oe, Y., <u>Kashimura, M.</u> , Kikuchi, A., Narisawa, T., & Horikoshi, M.）（査読有） https://doi.org/10.1002/jts.22901

5.	Factors influencing the mental health of international students, as observed in a longitudinal study on former Japanese Government scholarship students.	共著	2021年10月	Journal of Nippon Medical School, 88(5), 475-484.	過去に日本に国費留学生として留学した経験のある人々を対象としたフォローアップ調査。日本での留学経験が現在のキャリアにポジティブな影響を与えることが示唆された。(Minami, M., Niikura, R., <u>Kashimura, M.</u> , & Okubo, Y.) (査読有) https://doi.org/10.1272/jnms.JNMS.2021_88-606
6.	Psychometric properties of the Japanese version of the Geriatric Anxiety Inventory for community - dwelling older adults	共著	2021年3月	Psychogeriatrics, 21(3), 378-386.	オーストラリアで開発された高齢者を対象とした不安症状を測定する尺度の日本語版 (GAI-J) の作成。およそ先行研究に一致する結果が得られ、GAI-Jの有用性が示された (<u>Kashimura, M.</u> , Ishizu, K., Fukumori, T., Ishiwata, A., Tateno, A., Nomura, T., & Pachana, N.A.) (査読有) 2021 Mar 28 [online ahead of print] https://doi.org/10.1111/psyg.12683
7.	Acceptability and feasibility of a Japanese version of STRategies for Relatives (START-J): A manualized coping strategy program for family caregivers of relatives living with dementia.	共著	2020年4月	Dementia, 20(3), 985-1004.	英国で開発された認知症介護家族を対象とした心理教育プログラム STARTの日本語版を作成。介入単群の前後比較試験を実施し、介入後に抑うつ、QOL、介護負担感の改善が認められた (<u>Kashimura, M.</u> , Rapaport, P., Nomura, T., Ishiwata, A., Tateno, A., Nogami, A., Yamashita, M., Kawanishi, T., Kawashima, Y., Kitamura, S., Livingston, G.) (査読有) https://doi.org/10.1177/1471301220919938
8.	Developing a new scale to assess alexithymia-like features in Japanese youth: Investigation of the factor structure and psychometric properties.	共著	2020年2月	Journal of Nippon Medical School, 87(5), 285-293.	既存の尺度を参考にして中学生用のアレキシサイミア尺度を作成し、因子構造、信頼性・妥当性などの尺度特性を検討した (<u>Kashimura, M.</u> , Ishizu, K., Shimoda, Y.) (査読有) 2020 Feb 20 [Online ahead of print] https://doi.org/10.1272/jnms.JNMS.2020_87-507
9.	Cognitive Behavioral Therapy for improving mood in an older adult with mild cognitive impairment: A Case Report.	共著	2019年7月	Journal of Nippon Medical School, 86(6), 352-356.	抑うつ症状を訴える軽度認知障害の高齢者に全8回の認知行動療法プログラムを実施した事例報告。介入後に抑うつやQOLの改善が報告された (p352-356) (<u>Kashimura, M.</u> , Nomura, T., Ishiwata, A., Kitamura, S., Tateno, A.) (査読有) https://doi.org/10.1272/jnms.jnms.2019_86-603

10.	Role of resilience for the association between trait hostility and depressive symptoms in Japanese company workers.	共著	2019年2月	Current Psychology, 40(2), 2301-2308.	企業の社員を対象に、敵意と抑うつ症状に媒介するレジリエンスの役割に関する二次解析調査研究 (p2301-2308) (e-pub. doi: 10.1007/s12144-019-0166-y) (Yoshikawa, E., Nishi, D., <u>Kashimura, M.</u> , Matsuoka, Y.J.) (査読有) https://link.springer.com/article/10.1007/s12144-019-0166-y
11.	Expectations for the next generation of simulated patients born from thoughtful anticipation of artificial intelligence-equipped robot.	共著	2018年11月	Journal of Nippon Medical School, 85(6), 347-349.	ロボットによる模擬患者を使った教育に対する一般市民の考えと医療教育の将来像について。フォーカスグループを用いた質的研究 (p347-349) (Hayasaka, Y., Fujikura, T., <u>Kashimura, M.</u>) (査読有) https://doi.org/10.1272/jnms.jnms.2018_85-57
12.	How do the first year students find the way of learning medicine in Japan?	共著	2018年6月	MedEdPublish, 7: 125. (page 1-11)	医学部新入生オリエンテーションにおける学生の学びと医師としてのキャリアパスに関する質的研究 (epub) (Fujikura, T., <u>Kashimura, M.</u> , Hayasaka, Y., Inoue, C., Takeshita, T.) (査読有) https://doi.org/10.15694/mep.2018.0000125.1
13.	Feasibility of applying the psychosocial intervention STrAtegies for RelaTives to family caregivers of patients with dementia: a case report.	共著	2018年5月	Psychogeriatrics, 18(3), 235-238.	介護負担を訴える認知症の介護家族に全8回の日本語版STARTプログラムを実施した事例報告。介入後に抑うつ、QOL、介護負担感の改善が報告された (p235-238) (<u>Kashimura M.</u> , Nomura T, Ishiwata A, Kitamura S.) (査読有) https://doi.org/10.1111/psyg.12315
14.	Effect of guided, structured, writing program on self-harm ideations and emotion regulation	共著	2017年2月	The Journal of Medical Investigation, 64(1.2), 74-78.	構造化筆記により、ネガティブな気分の調節やネガティブな感情の受容に短期的な効果が見られた (p74-78) (Fukumori, T., Kuroda, H., Ito, M., <u>Kashimura, M.</u>) (査読有) https://doi.org/10.2152/jmi.64.74
15.	A Freshman Orientation Program to Provide an Overview of the Medical Learning Roadmap.	共著	2014年7月	Journal of Nippon Medical School, 81(6), 378-383.	医学部の初年度に実施する医学教育オリエンテーションが1年生の学びにどのような影響を与えうるかについて検討した質的研究 (p378-383) (Fujikura, T., Nemoto, T., Takayanagi, K., <u>Kashimura, M.</u> , Hayasaka, Y., Shimizu, K.) (査読有) https://doi.org/10.1272/jnms.81.378

16.	Telephone cognitive-behavioral therapy for subthreshold depression and presenteeism in workplace: A randomized controlled trial.	共著	2012年4月	PLoS ONE, 7(4), e35330. (page 1-9)	企業社員を対象とした電話による認知行動療法の臨床研究。介入による有意な効果が示された (e35330) (Furukawa, T.A., Horikoshi, M., Kawakami, N., Kadota, M., Sasaki, M., Sekiya, Y., Hosogoshi, H., <u>Kashimura, M.</u> , Asano, K., Terashima, H., Iwasa, K., Nagasaku, M., Grothaus, L.C.) (査読有) https://doi.org/10.1371/journal.pone.0035330
17.	Psychometric properties of the Bermond-Vorst Alexithymia Questionnaire in Japanese.	共著	2011年5月	Japanese Psychological Research, 53(3), 302-311.	オランダで開発されたアレキシサイミア尺度の日本語版の作成、信頼性・妥当性の検討 (p302-311) (<u>Kashimura, M.</u> , Ogawa, T., Vorst, H.C.M., Bermond, B.) (査読有) http://dx.doi.org/10.1111/j.1468-5884.2011.00472.x
(学術論文(和文))					
1.	高齢者・認知症への認知行動療法の実践	共著	2022年2月	認知療法研究, 15(1)	第20回日本認知療法・認知行動療法学会シンポジウムに関する報告。事例をまじえてアプローチの有効性に関する可能性を考察 (担当p53-56) (菊地俊暁・田島美幸・腰みさき・藤川真由・ <u>樫村正美</u>) (査読無)
2.	コンパッションとアサーションー臨床的応用：ケーススタディ	単著	2021年9月	精神療法増刊第8号	自分や他者を思いやることと自分の主張を他者に伝えることについて、事例をまじえながら考察。(p123-129) (<u>樫村正美</u>) (査読無)
3.	地域における認知症介護家族の相談ニーズと心理的支援ー臨床心理士の立場からー	共著	2021年6月	認知症ケア事例ジャーナル, 14(1)	地域における認知症介護家族への心理支援の可能性について、日本語版STARTを紹介しながら考察 (p59-65) (山下真里・ <u>樫村正美</u> ・加藤真衣・山崎明子) (査読無)
4.	若年認知症の人と家族の語りの分析 (その1) : ある夫婦間における認知症の認識の比較	共著	2019年6月	老年精神医学雑誌, 30 (増刊II)	地域在住の若年性認知症の方を対象にインタビュー調査を行い、夫婦間における認知症の認識の差異について比較、考察した (p186) (稲垣千草・加藤真衣・山下真里・根本留美・並木香奈子・井上志津子・永久美江子・ <u>樫村正美</u> ・野村俊明・北村伸・三品雅洋) (査読無)
5.	若年認知症の人と家族の語りの分析 (その2) : 関係性の変化に伴う語りの質的分析	共著	2019年6月	老年精神医学雑誌, 30 (増刊II)	地域在住の若年性認知症の方を対象にインタビュー調査を行い、関係性の変化を語りの内容の変化から考察 (p186) (加藤真衣・稲垣千草・山下真里・根本留美・並木香奈子・井上志津子・永久美江子・ <u>樫村正美</u> ・野村俊明・北村伸・三品雅洋) (査読無)

6.	地域在住高齢者にみられる迷惑行為に関する検討-地域包括支援センターを対象としたフォーカスグループ	共著	2018年1月	老年精神医学雑誌, 29巻1号	地域包括支援センター職員を対象に、地域在住高齢者にみられる迷惑行為に関するフォーカスグループを実施。迷惑行為の分類や支援上の困難に関する質的研究 (p65-74) (<u>樫村正美</u> ・野村俊明・川西智也・原祐子・北村伸) (査読有)
7.	介護家族および介護準備家族を対象とした集団版認知行動的プログラムの試み	共著	2017年12月	家族療法研究, 34巻3号	日本語版STARTの集団版を作成し、地域の認知症介護家族1グループ(5名)を対象に実施した集団版STARTの実践報告 (p281-290) (<u>樫村正美</u> ・野村俊明) (査読有)
8.	認知症の認知行動療法	共著	2017年6月	認知療法研究, 10(2)	高齢者を対象とした認知行動療法を実施する上での検討点を議論するシンポジウムに参加し、認知症に関する認知行動療法の取り組みを紹介し、実施に関する工夫や配慮などについて考察した (p171-180) (工藤喬・菊地俊暁・原祐子・色本涼・ <u>樫村正美</u>) (査読無)
9.	刑務所初入所の高齢受刑者のプロフィール：経済状況・家族関係・犯罪種別に着目して	共著	2017年6月	老年精神医学雑誌, 28(増刊II)	高齢受刑者のプロフィールを分析し、各受刑者の経済状況や家族関係、犯罪種別での差異から見えてくることについて考察した (p175) (川西智也・野村俊明・原祐子・ <u>樫村正美</u> ・奥村雄介・北村伸) (査読無)
10.	諸外国における学生相談の現状：アメリカ、イギリス、オランダのカウンセリングセンター視察から	共著	2016年7月	学生相談研究, 37巻2号	アメリカ、イギリス、オランダの大学三校の学生相談サービスの比較、インタビュー調査 (p37-48) (寺島瞳・島田直子・ <u>樫村正美</u>) (査読有)
11.	中学生における感情への評価と学校適応感の関連性についての検討	共著	2014年2月	心理学研究, 84巻6号	中学生の感情の評価(感情を良いもの/悪いものと捉える)と学校での主観的な適応感との関連性を調査研究で検討 (p576-584) (下田芳幸・石津憲一郎・ <u>樫村正美</u>) (査読有)
12.	対人ストレス経験から獲得した利益の筆記が精神的健康に及ぼす効果	共著	2013年6月	心理学研究, 84巻2号	対人関係によるストレスイベントの肯定的側面を筆記することで精神的健康に正の影響が見られた (p154-159) (羽鳥健司・石村郁夫・ <u>樫村正美</u> ・浅野憲一) (査読有)

13.	わりきり志向と感情体験、精神的健康の関連の検討	共著	2013年2月	ヒューマン・ケア研究, 13巻2号	物事を割り切る傾向はポジティブな感情体験や精神的健康と正の関連が見られることを示した調査研究 (p101-110) (浅野憲一・羽鳥健司・ <u>樫村正美</u> ・石村郁夫) (査読有)
14.	自他への破壊的行動理解としての感情抑制に関する心理学的研究	単著	2010年6月	博士学位論文 (Dissertation形式)	持続する感情抑制が一時的なアレキシサイミア様の状態を引き起こし、他害・自害のリスクのある行動に走りやすくなることをまとめた博士論文 (397頁) (筑波大学)
15.	感情抑制傾向尺度の作成の試みー尺度開発と信頼性・妥当性の検討ー	共著	2007年12月	健康心理学研究, 20巻2号	既存の尺度を参考に新しい感情抑制傾向を測定する尺度を作成し、信頼性・妥当性を検討した (p31-40) (<u>樫村正美</u> ・岩満優美) (査読有)
16.	強制的色彩反応と感情制御の困難さとの関係	共著	2006年11月	ロールシャッハ研究, 10巻	強制的色彩反応とアレキシサイミアの認知的側面 (感情の同定困難) との関連性を検討した (p45-52) (阿部宏徳・ <u>樫村正美</u> ・岩佐和典) (査読有)
(紀要論文)					
1.	対人感情制御からみる対人依存の適応戦略	共著	2023年6月	常磐大学心理臨床センター紀要	対人依存者の適応戦略方法として対人感情制御に着目し、他者との交流を通じた感情の制御の違いによって対人依存者の精神的健康にどのような影響が生じるかについて調査研究を実施した (印刷中) (<u>樫村正美</u> ・他9名) (査読有)
2.	感情無視の適応的側面に関する探索的検討	単著	2022年9月	人間科学	人の感情を無視する行為が持つ利益・コストの側面から感情無視の適応的な側面を明らかにするためKJ法を用いた質的な検討を行い、感情無視の利益・コストの分類を試みた (印刷中) (<u>樫村正美</u>) (査読無)
3.	認知症の人を介護する家族へのオンラインによる心理学的支援の試みービデオ通話による日本語版START (STrategies for Relatives) の二事例報告	単著	2022年3月	常磐大学心理臨床センター紀要, 16	認知症介護家族への心理教育的プログラムであるSTARTを遠隔で実施した二事例から、介護家族の遠隔支援のあり方について考察する (p3-16) (<u>樫村正美</u>) (査読有)
4.	高齢者・認知症への認知行動療法	単著	2020年1月	臨床精神医学, 49巻1号	高齢者全般、認知症高齢者を対象とした認知行動療法に関する知見をまとめた総説 (p65-72) (査読無)

5.	精神科を受診した学生の1年後の転帰に関する研究	共著	2019年12月	日本医科大学基礎科学紀要, 48巻	一医療機関を受診した大学生の特徴、一年後転帰に関する報告。紀要15の継続研究 (p7-20) (池田優子・ <u>樫村正美</u> ・石村郁夫・野村俊明・西松能子) (査読有)
6.	UPI短縮版を実施した5年間についての検証と段階評価の設定	共著	2019年12月	日本医科大学基礎科学紀要, 48巻	本学で学生を対象に実施したUPI短縮版の傾向をまとめ、UPIを段階評価にした際のメリット・デメリットについて (p39-58) (鋤柄のぞみ・ <u>樫村正美</u> ・加藤優子) (査読有)
7.	認知症介護家族のための心理教育プログラムSTART (STrAtegies for RelaTives) の紹介	共著	2018年12月	日本医科大学基礎科学紀要, 47巻	日本語版STARTの紹介、今後の課題や研究展望について (p15-29) (<u>樫村正美</u> ・川西智也・山下真里・川島義高・石渡明子・館野周・野村俊明) (査読有)
8.	心理検査・心理療法の副作用はありますか？	共著	2018年11月	精神科治療学, 33巻増刊号 (精神科臨床144のQ&A)	医療における心理検査・心理療法を実施する上での注意点などをまとめた (p294-295) (<u>樫村正美</u> ・野村俊明) (査読無)
9.	認知行動療法	単著	2018年10月	日本医師会雑誌, 147巻特別号(2) (認知症トータルケア)	高齢者全般、認知症高齢者を対象とした認知行動療法に関する知見をまとめた総説 (p245-246) (査読無)
10.	認知症と家族支援	単著	2018年8月	家族心理学年報, 36巻 (福祉分野に生かす個と家族を支える心理臨床)	認知症や介護家族に関する概説、具体的な家族支援のあり方についての総説 (p95-104) (査読無)
11.	高齢者への心理療法	単著	2018年3月	最新医学別冊, 132巻 (診断と治療のABC 老年精神医学132)	高齢者全般、認知症高齢者を対象とした認知行動療法に関する知見をまとめた総説 (p28-35) (査読無)
12.	高齢者にみられる迷惑行為	単著	2017年11月	老年精神医学雑誌, 28巻11号	学術論文8の要約と高齢者による迷惑行為に関する総説 (p1222-1228) (査読無)
13.	医学生を対象とする認知行動療法の教育	共著	2017年5月	精神療法, 28巻 (増刊4 認知行動療法のこれから)	医学教育コア・カリキュラムに明記された認知行動療法を医学部においてどのように教育すべきかをまとめた (p120-125) (野村俊明・ <u>樫村正美</u>) (査読無)
14.	認知行動療法を認知症患者にどう適用するか？	単著	2017年2月	週刊日本医事新報, 4844号	認知症高齢者に認知行動療法を適用する際の工夫や注意点について。読者から寄せられたQ&A (p62-63) (査読無)
15.	認知症におけるうつ・不安に対する認知行動療法の可能性	単著	2016年5月	精神科, 28巻 (特集 高齢者への精神療法)	認知症高齢者を対象とした認知行動療法に関する知見をまとめた総説 (p406-410) (査読無)
16.	認知行動療法の紹介	共著	2016年4月	日本医科大学医学会雑誌, 12巻2号	認知行動療法の紹介 (p57-60) (<u>樫村正美</u> ・野村俊明) (査読無)

17.	心的外傷後ストレス障害に愛する認知処理療法 犯罪被害後のトラウマ治療を中心に	共著	2016年2月	精神科治療学, 31巻2号	心的外傷後ストレス障害に対する認知処理療法の有効性についてレビューした (p221-225) (39. 伊藤正哉・堀越勝・牧野みゆき・蟹江絢子・成澤知美・片柳章子・正木智子・高岸百合子・中島聡美・小西聖子・森田展彰・今村扶美・ <u>榎村正美</u> ・平林直次・古川壽亮) (査読無)
18.	認知症の地域ケアに対する認知行動療法の応用	共著	2016年2月	精神科治療学, 31巻2号	認知症の介護家族を対象とした集団認知行動療法プログラムの実践例の紹介 (p185-190) (田島美幸・櫻井優磨・蟹江絢子・原祐子・ <u>榎村正美</u>) (査読有)
19.	一医療施設における学生の精神科受診動向に関する調査研究	共著	2014年9月	日本医科大学基礎科学紀要, 43巻	一医療機関における大学生の受診状況、診断内容などのプロフィールについて (p73-85) (<u>榎村正美</u> ・石村郁夫・竹下遙・大江悠樹・野村俊明・西松能子) (査読有)
20.	認知処理療法 (CPT) 心的外傷後ストレス障害の治療法	共著	2012年2月	カレントセラピー, 30巻2号	PTSD治療に有効な認知処理療法の紹介 (p164-164) (堀越勝・高岸百合子・ <u>榎村正美</u>) (査読無)
21.	大学生における状態アレキシサイミアに関する予備的検討	単著	2009年8月	筑波大学心理学研究, 38巻	大学生を対象としたアレキシサイミアのアナログ研究。アレキシサイミア状態を仮定し調査研究を実施 (p109-119)。 (査読有)
22.	認知処理療法	共著	2008年3月	トラウマティック・ストレス, 6巻1号	PTSD治療に有効な認知処理療法の紹介 (p67-74)。(堀越勝・福森崇貴・ <u>榎村正美</u>) (査読無)
23.	情緒的巻き込まれ傾向とロールシャッハ情緒体験—色彩反応と材質反応からの検討—	共著	2008年3月	常磐大学心理臨床センター紀要, 2巻	情緒的巻き込まれ傾向 (質問紙) とロールシャッハ法の色彩反応。材質反応との関連を検討 (p15-21) (馬場久美子・ <u>榎村正美</u>) (査読有)
24.	不快感情の抑制に伴って生ずる派生的感情について—予備的研究—	共著	2007年3月	筑波大学心理学研究, 33巻	不快な感情を抑制することで新たな不快な感情が喚起されることを示した予備的な調査研究 (p89-94) (<u>榎村正美</u> ・小川俊樹) (査読有)
25.	成人期アスペルガー障害に対する心理学的援助に関する一考察	単著	2006年3月	筑波大学臨床心理学論集, 21巻	成人期アスペルガー障害に関する概説と著者自身が担当した事例の要約 (p11-18) (査読無)

(辞書・翻訳書等)					
1	マインドフル・カップル-パートナーと親密な関係を築くための実践的ガイド	共訳	2022年6月	金剛出版	親密な二者関係のあり方について、アクセプタンス&コミットメントセラピーの立場から説明する一般書。共訳のため担当部分抽出不可能(野末武義監訳・ <u>樫村正美</u> ・大山寧寧訳) Walser, R.D., & Westrup, D. The Mindful Couple: How acceptance and mindfulness can lead you to the love you want. New Harbinger Publications, 2009.
2	セルフ・コンパッション [新訳版] - 有効性が実証された自分に優しくする力	監訳	2021年7月	金剛出版	2014年に出版された『セルフ・コンパッション』の新訳版。共訳のため担当部分抽出不可能(石村郁夫・ <u>樫村正美</u> ・岸本早苗監訳, 浅田仁子訳) Neff, K. Self-compassion: The proven power of being kind to yourself. William Morrow. 2011.
3.	30分でできる怒りのセルフコントロール	共訳	2017年4月	金剛出版	認知行動療法に基づく怒りのマネジメントに関する一般書。共訳のため担当部分抽出不可能(<u>堀越勝</u> ・ <u>樫村正美</u> 訳) Potter-Efron, R.T. & Potter-Efron, P.S. 30-minute therapy for anger: everything you need to know in the least amount of time. New Harbinger Publications, 2011.
4.	30分でできる不安のセルフコントロール	共訳	2017年4月	金剛出版	認知行動療法に基づく不安のマネジメントに関する一般書。共訳のため担当部分抽出不可能(<u>堀越勝</u> ・ <u>樫村正美</u> 訳) McKay, M. & DuFrene, T. 30-minute therapy for anxiety: everything you need to know in the least amount of time. New Harbinger Publications, 2011.
5.	慢性疾患の認知行動療法-アドヒアランスとうつへのアプローチ (セラピストガイド)	分担	2015年6月	診断と治療社	慢性疾患に対する認知行動療法プログラムの紹介、セラピスト向けガイド。第1章「セラピストのための基礎知識」(p1-18)を担当。(堀越勝・安藤哲也監訳) Safren, S.A., Gonzalez, J.S., Soroudi, N. Coping with Chronic Illness: Therapist Guide. Oxford University Press, Inc, 2008.

6.	慢性疾患の認知行動療法ワークブック-アドヒアランスとうつへのアプローチ	分担	2015年6月	診断と治療社	慢性疾患に対する認知行動療法プログラムの紹介、患者向けワークブック。第1章「導入」(p1-15)を担当。(堀越勝・安藤哲也監訳) Safren, S.A., Gonzalez, J.S., Soroudi, N. Coping with Chronic Illness: Workbook. Oxford University Press, Inc, 2008.
7.	支持的精神療法入門	分担	2015年5月	医学書院	支持的精神療法に関する概論書。第2章「原則と行動様式」(p15-39)を担当。(大野裕・堀越勝・中野有美監訳) Winston, A., Rosenthal, R.N., Pinsky, H. Learning Supportive Psychotherapy: An Illustrated Guide. American Psychiatric Association, 2012.
8.	災害精神医学	分担	2015年1月	星和書店	災害に見舞われた際のメンタルヘルスの評価、診断、治療について。第9章「パーソナリティに関する問題」(p203-216)を担当。(富田博秋・高橋祥友・丹羽真一監訳) Stoddard, F., Pandya, A., Katz, C.L. Disaster Psychiatry: Readiness, Evaluation, and Treatment. American Psychiatric Publishing, 2011.
9.	セルフ・コンパッション-あるがままの自分を受け入れる	共訳	2014年11月	金剛出版	自分を思いやることの難しさと重要性を説く一般書。共訳のため担当部分抽出不可能。(石村郁夫・櫻村正美訳) Neff, K. Self-compassion: The proven power of being kind to yourself. William Morrow. 2011.
(報告書・会報等)					
1.	つくばアクションプロジェクトの創出とその効果について	共著	2013年3月	Campus Health, 50巻	筑波大学学生支援GPとして実施した学生の自発的な活動を支援する取り組みを紹介(pp. 394-396)(杉江征・櫻村正美・三輪佳宏・中内靖・佐藤純・青柳悦子・田中佐代子・大手昇一・加賀信広)
(国際学会発表)					
1.	Are negative emotions bad? Evaluating emotions and mental health of Japanese children.	単独	2012年11月	International Journal of Psychiatry in Clinical Practice (Barcelona, Spain)	小・中学生を対象にした、感情評価(感情をどのように捉えるか)が抑うつと関連することを発表(ポスター)

2.	Investigation of “alexithymia-like features” for Japanese elementary and junior high school students	単独	2011年10月	Emotions Fifth international conference on the (non) expression of emotions in health and disease. (Tilburg, the Netherlands)	学術論文2に関する研究報告。子どものアレキシサイミア尺度と抑うつや他者感情の認識との関連（ポスター）
(国内学会発表)					
1.	認知症介護家族への心理学的支援の試みー日本語版STARTの予備的検討	単独	2021年12月	第37回日本精神衛生学会オンライン大会（常磐大学）	地域在住の介護家族を対象とした日本語版STARTの単群前後比較試験報告（ポスター）（ <u>樫村正美</u> ）
2.	日本語版Geriatric Anxiety Inventory (GAI) の開発	共同	2020年9月	第84回日本心理学会オンライン大会（東洋大学）	高齢者を対象とした不安尺度の日本語版の作成、尺度特性の検討（ポスター）（ <u>樫村正美</u> ・石津憲一郎・福森崇貴）
3.	高齢者・認知症への認知行動療法の適用（大会シンポジウム）	単独	2020年11月	第20回日本認知療法・認知行動療法学会	レビー小体病を伴う軽度認知障害の女性の事例紹介をしつつ、認知機能が低下した高齢者に認知行動療法を実施する上での工夫や配慮について報告（口頭発表）
4.	高齢者を対象とした認知行動療法の実践：認知症高齢者への適用を含めて（教育講演）	単独	2019年8月	第19回日本認知療法・認知行動療法学会（国際医療福祉大学）	高齢者や認知症の人に認知行動療法を実施する上での注意点や工夫、現在までのエビデンスなどを紹介（口頭発表）
5.	高齢者の不安・うつ症状に対する認知行動療法の試みー事例からみる介入プログラムの安全性・有用性の可能性について	共同	2019年6月	第34回日本老年精神医学会（トークネットホール仙台）	抑うつ症状を呈する非認知症の高齢女性を対象とした認知行動療法の一事例報告（ポスター）。気分やQOLの改善がみられた（ <u>樫村正美</u> ・野村俊明・石渡明子・館野周）
6.	外来における認知症介護家族のためのSTARTプログラムの試み	共同	2018年9月	第8回日本認知症予防学会（日本教育会館）	多忙なプライマリケアで介護家族用STARTプログラムを実施する工夫について（口頭発表）（ <u>樫村正美</u> ・川西智也・野村俊明・辻正純・管谷由紀子）
7.	高齢者のもの忘れ相談におけるフレイルチェックの有用性	共同	2018年9月	第8回日本認知症予防学会（日本教育会館）	簡易的に測定可能なフレイルの測定ツールを開発し、その有用性について報告（口頭発表）（山下真里・稲垣千草・根本留美・加藤真衣・並木香奈子・井上志津子・長江美江子・ <u>樫村正美</u> ・北村伸・野村俊明・三品雅洋）
8.	保健所における地域在住高齢者の迷惑行為への対応～困難に関する自由記述の分析から～	共同	2018年9月	第8回日本認知症予防学会（日本教育会館）	保健所を対象とした高齢者の迷惑行為に関する調査を実施し、困難と感じる事例の自由記述内容を質的に分析、結果を報告（口頭発表）（川西智也・野村俊明・原祐子・ <u>樫村正美</u> ・北村伸）

9.	認知症の介護家族を対象とした心理社会的介入の試み-日本語版STARTの安全性と有用性の予備的検討-	共同	2018年6月	第33回日本老年精神医学会（ビッグパレット福島）	学術論文1に関する報告（口頭発表）（ <u>樫村正美</u> ・野村俊明・石渡明子・舘野周・川西智也・北村伸）
10.	軽度認知障害高齢者の心理面接に家族が同席する意義	単独	2017年9月	第34回日本家族心理学会（作新学院大学）	軽度認知障害高齢者への認知行動療法に家族を同席させることのメリットについて（口頭発表）
11.	保健所が関与した地域在住高齢者の迷惑行為の実態	共同	2017年9月	第7回日本認知症予防学会	保健所を対象に実施した調査から、高齢者の迷惑行為の分類を試み、その結果を報告（口頭発表）（川西智也・原祐子・ <u>樫村正美</u> ・野村俊明・北村伸）
12.	認知症患者とその介護者を対象とした認知行動的なアプローチ（シンポジウム）	単独	2017年6月	第17回日本抗加齢医学会（東京国際フォーラム）	認知症高齢者やその介護家族への認知行動療法を適用する取り組みについて報告（パネリスト発表）
13.	認知症患者を対象とした認知行動療法の取り組みから見えてくること（シンポジウム）	単独	2016年11月	第16回日本認知療法・認知行動療法学会（大阪大学）	認知症高齢者に認知行動療法を適用する中で見えてきた課題や注意点について報告（パネリスト発表）
14.	介護ストレスの軽減を目的とした家族への心理的介入-日本語版START（STrAtegies for RelaTives）を実施した一事例報告-	単独	2016年10月	日本家族心理学会第33回大会・日本交流分析学会第41回大会合同大会（聖徳大学）	認知症介護家族への日本語版STARTを実施したイニシャルケースについて、実施可能性や安全性の報告（口頭発表）
15.	地域包括支援センターが関与した地域在住高齢者の迷惑行為の実態（2）-迷惑行為に関連する要因について-	共同	2016年9月	第6回日本認知症予防学会（東北大学）	学術論文8に関する研究発表（口頭発表）（ <u>樫村正美</u> ・川西智也・原祐子・稲垣千草・根本留美・山下真里・並木香奈子・深津亮・三品雅洋・野村俊明・北村伸）
16.	介護家族と介護準備家族を対象とした集団版認知行動療法プログラムの試み-日本語版START短縮版プログラム報告-	共同	2016年9月	第33回日本家族療法学会（長崎純心大学）	学術論文9に関する研究発表（口頭発表）（ <u>樫村正美</u> ・野村俊明）
17.	軽度認知障害の高齢者を対象とした認知行動療法の試み-気分の悪化を訴える女性に適用した8回版プログラムの紹介-	共同	2016年9月	第35回日本心理臨床学会秋季大会（パシフィコ横浜）	学術論文3に関する研究発表（ポスター）（ <u>樫村正美</u> ・野村俊明）

18.	もの忘れを主訴とした高齢者に対する認知行動療法の安全性の検討	共同	2015年9月	第5回日本認知症予防学会（神戸国際会議場）	認知行動療法に興味を示した物忘れを呈する高齢者を対象にプログラムの内容理解度、安全性の検討（口頭発表）（ <u>樫村正美</u> ・野村俊明・石渡明子・北村伸）
19.	高齢者に対する認知行動療法の適用の可能性（シンポジウム）	単独	2015年7月	第12回日本うつ病学会総会・第15回日本認知療法・認知行動療法学会合同開催（京王プラザホテル）	高齢者のうつや不安に対する認知行動療法の実施可能性、現在の取り組みを紹介（パネリスト発表）
20.	感情との関わり方の違いと抑うつ傾向	共同	2014年9月	第78回日本心理学会（同志社大学）	学術論文2に関する研究報告（ポスター）（ <u>樫村正美</u> ・石津憲一郎・下田芳幸）
21.	認知症高齢者と介護家族に対する認知行動療法の可能性	共同	2014年9月	第4回日本認知症予防学会（日本医科大学）	認知症高齢者への認知行動療法の可能性について文献レビューの結果を発表（口頭発表）（ <u>樫村正美</u> ・野村俊明）
22.	日本における認知処理療法の可能性（シンポジウム）	共同	2014年5月	第13回日本トラウマティック・ストレス学会（福島県立医科大学）	PTSDの改善に有効とされる認知処理療法の日本への導入、実施可能性や安全性について（パネリスト発表）（堀越勝・森田展彰・伊藤正哉・高岸百合子・ <u>樫村正美</u> ）
23.	子どもにおけるアレキシサイミア様特徴の検討	単独	2011年9月	第75回日本心理学会（日本大学）	学術論文2に関する研究報告、子どものアレキシサイミア尺度の因子構造、信頼性の検討（ポスター）
24.	小・中学生における感情に対する評価の検討	単独	2010年9月	第74回日本心理学会（大阪大学）	小中学生がネガティブな感情をよいもの／悪いものと捉える傾向を測定する尺度の作成（ポスター）
25.	アレキシサイミアからみた「感情無視」の利益・コストの認識効果の検討	共同	2009年5月	第17回日本感情心理学会（徳島大学）	アレキシサイミアにみられる感情を無視しようとする傾向とその適応的／不適応的な側面の認識とメンタルヘルスとの関連（ポスター）（ <u>樫村正美</u> ・福森崇貴）
26.	学生の自発性・自信を育てる学生支援アプローチ（1）	共同	2009年5月	第27回日本学生相談学会（津田塾大学）	筑波大学学生支援GPの取り組み「つくばアクションプロジェクト」の学生支援における意義について（口頭発表）（ <u>樫村正美</u> ・杉江征・佐藤純）
27.	感情無視によって生ずるアレキシサイミアの適応的側面の検討	共同	2007年9月	第71回日本心理学会（東洋大学）	アレキシサイミアにみられる感情を無視しようとする傾向の適応的な側面についての予備的な検討（ポスター）（ <u>樫村正美</u> ・小川俊樹）

28.	「情緒的巻き込まれ」に関する研究(7)～ロールシャッハ情緒指標との関連から	共同	2007年9月	第71回日本心理学会(東洋大学)	紀要19に関する研究報告(ポスター)(馬場久美子・ <u>檜村正美</u>)
29.	日本語版Bermond-Vorst Alexithymia Questionnaireの作成ー因子構造、信頼性および妥当性の検討	単独	2007年8月	第20回日本健康心理学会(早稲田大学)	学術論文17に関する研究報告(ポスター)
30.	アレキシサイミアから見た「感情無視」の適応的側面の探索ーKJ法による自由記述の分析を通して	共同	2006年11月	第70回日本心理学会(九州大学)	アレキシサイミアにみられる感情を無視しようとする傾向とその適応的な側面の探索的検討(ポスター)(<u>檜村正美</u> ・小川俊樹)
31.	不快感情の抑制プロセスにおける二重抑制の意義の検討ー派生的感情の観点からー	単独	2006年9月	第19回日本健康心理学会(同志社大学)	紀要20に関する研究報告(ポスター)
32.	色から見た把握型とアレキシサイミア要因との関係	共同	2005年10月	第9回日本ロールシャッハ学会(山形大学)	学術論文20に関する研究報告(口頭発表)(阿部宏徳・ <u>檜村正美</u> ・岩佐和典・小川俊樹)
33.	感情抑制がもたらすアレキシサイミアの行動化に与える影響	共同	2005年9月	第69回日本心理学会(慶應義塾大学)	感情抑制がアレキシサイミアを促し、それにより他害・自害の行動を引き起こすことを示した縦断調査(ポスター)(<u>檜村正美</u> ・小川俊樹)
34.	感情抑制傾向尺度の作成の試みー尺度開発と信頼性・妥当性の検討ー	共同	2005年9月	日本健康心理学会第18回大会・日本心理医療諸学会連合第18回学術大会(神戸女学院大学)	学術論文19に関する研究報告(ポスター)(<u>檜村正美</u> ・岩満優美)
	(演奏会・展覧会等)				
1.					
	(招待講演・基調講演)				
1.					
	(受賞(学術賞等))				
1.					

研 究 活 動 項 目						
助成を受けた研究等の名称	代表, 分担等の別	種 類	採択年度	交付・受入元	交付・受入額	概 要
(科学研究費採択)						
1. 高齢期における抑うつ・不安に対する個別化された認知行動療法プログラムの開発	代表	基盤C	2022年度	科研費	403万円 (4年度)	複雑化する高齢者の呈する精神症状へのアプローチを構築するため、個々のニーズに応じた認知行動療法プログラムを開発し、その効果を検証する。
2. コンパッションの視点を統合した思春期における感情のアクセパタンスワークの開発	分担	基盤C	2022年度	科研費	416万円 (4年度)	思春期・青年期を対象とした心理社会的介入法の開発。コンパッションの視点からの介入方法の開発を担当。
3. うつ病に対する複合的な集団コンパッション・フォーカスト・セラピープログラムの開発	分担	基盤B	2019年度	科研費	1,716万円 (4年度)	うつ病患者を対象とした集団コンパッションフォーカストセラピーの開発と効果検証。家族のためのプログラム開発と効果検証を担当。
4. 高度な医療コミュニケーション教育に向けたアンドロイド型医療面接システム	分担	基盤B	2019年度	科研費	1,586万円 (3年度)	医学部生の手技・コミュニケーション評価のためのアンドロイド開発。主にコミュニケーションを担当。
5. 一般市民の教育参画システム構築から探索する市民に寄り添う医学教育の質的研究	分担	基盤C	2019年度	科研費	390万円 (3年度)	科研費6の継続課題。一般市民に医学教育にご参加いただきながら、患者目線ではなく一般市民目線での医学教育のあり方を模索。医学教育界に具体的な教育方法を提言することを試みる。
6. 軽度認知障害の高齢者とその家族を対象とした認知行動療法プログラムの効果	代表	若手	2018年度	科研費	416万円 (3年度)	軽度認知障害・軽度認知症高齢者、介護家族を対象とした認知行動療法プログラムの開発と効果検証
7. 市民と共に学ぶ医療を実現する次世代模擬患者養成プログラム開発に関する研究	分担	基盤C	2015年度	科研費	455万円 (4年度)	医学教育のための模擬患者養成プログラムの開発。主に医療コミュニケーションに関する内容を担当。
8. 高齢者の「反社会的行動」に関する研究－医療・福祉・司法からの多面的アプローチ	分担	基盤C	2015年度	科研費	468万円 (3年度)	高齢受刑者の認知機能のプロフィール分析、地域在住高齢者にみられる迷惑行動の分類、インタビュー。
9. 高齢者支援のための心理社会的介入プログラムの開発	代表	挑戦的萌芽	2014年度	科研費	312万円 (3年度)	主に認知障害、認知症の高齢者を対象とした認知行動療法プログラムの開発と実施可能性の評価。

10.	心的外傷後ストレス障害に対する認知処理療法の効果検証と治療メカニズムの解明	分担	基盤B	2012年度	科研費	1,495万円 (3年度)	PTSD治療のための認知処理療法の効果検証。集団版プログラムの翻訳、開発に従事。
11.	感情育成（情育）のための心理教育的介入パッケージの開発	代表	若手	2011年度	科研費	234万円 (3年度)	乳幼児期の感情発達アセスメントと心理教育プログラムの開発。怒りのマネジメントプログラムの開発
12.	感情育成（情育）のための心理教育・治療プログラムの開発	代表	研究活動 スタート 支援	2009年度	科研費	205万円 (2年度)	小中学生を対象とした感情を育てるための心理教育プログラムの開発、調査研究。
(競争的研究助成費獲得(科研費除く))							
1.	認知症の介護家族を対象とした心理教育的介入プログラムの開発	代表	2017年度 国内共同 研究・満 39歳以下	2017年度	ファイ ザーヘル スリサー チ助成	100万円 (1年度)	認知症の介護家族を対象にした心理教育プログラムSTARTのマニュアル作成、地域在住介護家族に実施。
(共同研究・受託研究受入れ)							
1.							
(奨学・指定寄付金受入れ)							
1.							
(学内課題研究(共同研究))							
1.							
(学内課題研究(各個研究))							
1.							
(知的財産(特許・実用新案等))							
1.							